



TITLE:

京大広報 No. 129

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 129. 京大広報 1976, 129: 588-589

ISSUE DATE:

1976-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209562>

RIGHT:

京大広報

No. 129

京都大学広報委員会

国家公務員の週休二日制の 試行について

本年10月から国家公務員に週休二日制が試行されることになり、本学においても10月2日から実施されます。

昭和48年8月、人事院は給与勧告のなかで初めてこの問題を提起しました。その後関係機関で検討を重ねておりましたが、本年1月に人事院は週休二日制の試行基準を示し、7月には週休二日制関係閣僚懇談会において試行実施が決定されました。

人事院の試行基準と閣僚懇談会の決定事項の内容は、おおむね次のようなものです。

1 試行の目的は、週休二日制を実施した場合の問題点を明らかにし、将来の対策に必要な資料を得ようとするものである。

2 試行期間は1年間の範囲内とし、現行の官庁執務時間のもとで試験的に行うものであって、本格実施を前提とするものでない。

3 現行の定員・予算の範囲内で行う。

4 試行の対象となる職員は各省各庁の総職員数の10分の3以内とし、毎週土曜日におおむね4分の1の者について行う。

京都大学においては、授業等の上に変更を加えることなく、また公務の運営に支障をきたすことなく、この試行計画を実施することにしました。部局別の試行期間は下表のとおりです。試行期間中の部局に所属する職員は、その期間内に原則として4週間に一度の割で3回（医学部附属病院、医学部臨床系教官および結核胸部疾患研究所については2回）、土曜日の職務専念義務が免除されます。各人がどの土曜日に該当するかは、あらかじめ部局長から各職員に通知され、本人が確認す

表 その1

試 行 期 間			
51.10.2 ~ 51.12.24	52.1.8 ~ 52.4.2	52.4.9 ~ 52.7.1	52.7.2 ~ 52.9.23
文 学 部 理 学 部 農 学 部 化 学 研 究 所 食 糧 科 学 研 究 所 基 礎 物 理 学 研 究 所 ヘリオトロン核融合研究センター 東南アジア研究センター 庶 務 部	教 育 学 部 医 学 部 農 学 部 附 属 農 場 人 文 科 学 研 究 所 防 災 研 究 所 数 理 解 析 研 究 所 放 射 性 同 位 元 素 総 合 センター 保健管理センター及び保健診療所 経 理 部	法 学 部 薬 学 部 教 養 部 農 学 部 附 属 演 習 林 原 子 エ ネ ル ギ ー 研 究 所 ウ イ ル ス 研 究 所 原 子 炉 実 験 所 霊 長 類 研 究 所 放 射 線 生 物 研 究 センター 体 育 指 導 センター 施 設 部 医 療 技 術 短 期 大 学 部	経 済 学 部 工 学 部 木 材 研 究 所 経 済 研 究 所 大 型 計 算 機 センター 附 属 図 書 館 学 生 部

備考 医学部については、臨床系教官は別途実施のため除外。

ることになっています。ただし、土曜日に授業のある教官および関係職員、交替制勤務の職員等には特に土曜日以外の日あるいは時間を代替できるよう配慮されています。

本学では9月7日の拡大部局長会議で、試行実施が了承されています。

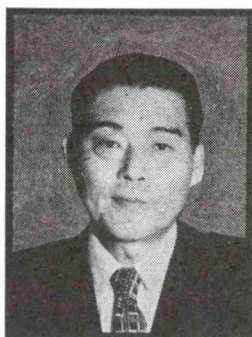
表 その2

試 行 期 間
52.7.30~52.9.23
医学部 附属病院 医 学 部 結核胸部疾患研究所

備考¹ 医学部については、臨床系教官のみ。
(庶務部)

緒方浩一教授の逝去について

農学部緒方浩一教授（農芸化学科）は急性腎不全のため9月3日午後1時44分逝去された。享年59歳。緒方教授は醸酵生理及び醸造学講座担任で農学博士。昭和16年京都帝国大学農学部農林化学科を卒業後、財団法人醸酵研究所主任研究員、武田薬品工業株式会社参事等を経て、昭和36年9月より本学農学部教授に就任、醸酵生理及び醸造学の分野における教育研究活動で顕著な業績を挙げられた。学外においても日本農芸化学会理事、同関西支部長、日本醸酵工学会理事、醸酵工業協会副会長等幅広い学会活動のほか、ユネスコ微生物国際大学院研修講座講師及び日本学術会議会員として指導的役割を果たされた。これら生前の功績に対して従四位勲三等瑞宝章が授与された。



なお、緒方教授の農学部農芸化学科主催追悼式は10月3日（日）午後2時から農学部101講義室において執り行われる。

鳥養利三郎名誉教授の逝去について

名誉教授鳥養利三郎博士は、9月24日午後9時老衰のため逝去された。享年89歳。

博士は本学の第13代総長である。博士は、大正元年12月、京都帝国大学理工科大学卒業後、直ちに同講師、同3年助教授を経て、同12年教授に就任、電気工学第3講座を担当され、更に昭和16年9月から18年9月まで工学部長、同18年10月から20年10月まで工学研究所長、同20年11月から26年11月まで京都大学総長に任ぜられた。博士は、わが国電気工学界の権威として今日まで幾多の研究業績を挙げられ、特に変圧器巻線に関する研究、高電圧過渡現象測定に関する研究ならびに高周波焼入れに関する研究は高い評価を得たものである。



総長として前後6年2期に亘る在職中には、大学運営の最高責任者として戦後の混乱期に対処され、本学の伝統を継承し、教育・研究の水準を高めるために努力され、更に教養部の整備、食糧科学研究所、教育学部、防災研究所の創設等、本学の発展に貢献された。また日本学術会議第5部長、日本学士院会員、大学設置審議会委員、大学基準協会副会長等の要職にあって、戦後の教育政策の推進に寄与された。更に総長退職後も、湯川記念財団理事長、日本ユネスコ国内委員会会長、応用科学研究所理事長等として教育研究の振興、学術文化の向上に貢献され、昭和36年には京都市名誉市民、昭和39年には勲一等瑞宝章、昭和42年には文化功労者、昭和49年には旭日大綬章の榮譽を受けられた。

なお、博士の告別式は、9月26日、光雲寺（京都市左京区南禅寺北の坊町）で執り行われた。